

地域医療の現状と課題を把握 安心して暮らせる環境を目指す

―南丹市医療対策審議会答申―

医師・看護師不足、医療機関へのアクセス不安など、南丹市の医療を取り巻く状況は厳しく、地域医療の充実に向けた対策が早急に求められています。そこで、南丹市医療対策審議会（佐藤史朗会長）において、住民が安心して医療を受けられる環境づくりについて討議が重ねられました。12月5日、南丹市医療圏域の医療の提供体制についての答申が市長に提出され、これをもとに今後の医療施策の具体化に向けて進めていきます。



▲答申を市長に手渡す佐藤会長（左）



▲地域活性化の新たなスタートとなった設立総会

法人化し、農業経営を合理化

―農事組合法人木喰の郷もろはた設立総会―

八木町諸畑地区では、農業の高齢化が進む中、昭和59年から農地の保全、特産品づくりや地域活性化を行う集落営農に取り組みられています。12月20日に、農業の維持・発展のために地域農家48人で構成する農事組合法人「木喰の郷もろはた」（明田卓代表理事）を新たに設立。農地の集積、大型機械の導入により、今後は水稲をはじめ、小麦・小豆・大豆など土地利用型作物を中心に効率的で安定した法人経営が進められます。

名所つなぐ架け橋、装い新たに

―高松橋完成式典―

府道京都広河原美山線に架かる高松橋が完成しました。旧高松橋は幅員が狭く、大型車の離合が困難でしたが、幅員6.5m、歩道2.5mの歩行者にも安全な橋となりました。12月24日の式典では地元平屋小学校児童が鼓笛演奏で花を添え、テープカットの後、出席者全員で渡り初めをしました。

なお、高松橋がつなぐ大野ダムから芦生ロードパークまでが『美山かやぶき由良里街道』として、府内3カ所目の日本風景街道（国土交通省）に登録されました。



▲広くなった橋上でテープカット



▲和やかな雰囲気の中行われたワークショップ

「協働」今なぜ必要なのか 連携による地域づくり検討

―地域協働トライアル―

『地域協働トリアル・京都中部』「結い」の再生に向けて、1月23日、24日の2日間、南丹市国際交流会館で開催。行政をはじめ、龍谷・同志社・立命館の各大学などで構成する実行委員会が主体となって企画運営しました。龍谷大学富野暉一郎教授による基調講演の後、5グループに分かれてワークショップを行いました。参加者は住民代表、学生、職員などがそれぞれの立場から「協働」を考え、協働と連携による地域づくりの方策を検討しました。